

白神トピックス

『白神ねぎ』の収穫を前に講習会を開催

ねぎ部会

ねぎ部会（山谷初男部会長）による夏ねぎ現地巡回講習会が6月22日、農業技術センターで開かれ、生産者やJA、秋田県農業試験場の担当者ら約30名が参加しました。

はじめに山谷部会長が「今年は適度に雨も降り生育も順調に進んでいる。収穫作業も始まるが肥培管理を徹底してもらいたい」とあいさつ。その後、地域振興局職員から生育状況などの説明がされ「湿度が高いことでべと病の発生が多く見られている。害虫では、昨年から発生が確認されている、アメリカネナシカズラが確認されているので圃場での確認を行ってほしい」と病害虫の防除を呼びかけました。



▲圃場では生育状況等を確認した



▲定植作業に励む児童たち

浅内小児童が『白神ねぎ』の定植体験

営農企画課

能代市立浅内小学校の5年生の児童18人が、総合学習の授業で『白神ねぎ』づくりに挑戦しました。この活動は毎年5年生が担当し、定植から収穫まで行い、11月の学習発表会で保護者や地域の方々へ販売する同校の名物行事となっています。

6月21日に行われた定植作業では、JA職員の協力のもと、約15mの畝4列に『白神ねぎ』を植えました。児童たちは畝作りや肥料をまいた後、「ひっぱり君」を使って一生懸命定植作業を行いました。児童からは「今は細いけど、秋には太いねぎになるよう大事に育てます」といった感想が聞かれました。

田んぼの生き物調査を実施

JAあきた白神

JAあきた白神はJA全農あきたの協力のもと6月15日に「田んぼの生き物調査」を能代市立第四小学校の5年生85人を対象に実施しました。

調査は自分たちで田植えをした田んぼで行い、網を使って生き物を探したあと、植物・陸生動物・水生動物の3班に分かれて田んぼの周辺を調査しました。児童らは、JA全農あきた・JA職員の説明を受けながら、ヤゴやカエル、コガムシなどを採取しました。また、植物ではシロツメグサやヨモギなどの多くの植物も採取しました。

児童からは「身近な田んぼに、こんなにたくさんの生物がいるとは思わなかった」と感想を話しました。



▲目を凝らして生物を探します



▲規格を確認する生産者

収穫を前に目揃会を開催

園芸部会

園芸部会（畑山悦雄部会長）による、スナップエンドウ出荷目揃会が6月9日、農業技術センターで開催されました。生産者やJA、種苗会社担当者など約30人が参加し、生育状況の確認や病害虫の防除、出荷規格の確認を行いました。

種苗担当者からは、収穫開始前後の追肥、水管理などの栽培管理の説明があったほか、莢に付着した花びらは早めに取り除くといった病害虫防除の徹底を呼び掛けました。

スナップエンドウは、水稻との複合経営を進める品目として普及を始めて今年で4年目となります。今年約30人の生産者が出荷を予定しています。